



ArcDR³ (Architecture and Urban Design for Disaster Risk Reduction and Resilience) 「リジェネラティブ・アーバニズム展」をロサンゼルスで開催しました (2023/1/26 - 28)

テーマ：災害と都市デザイン、レジリエンス、防災、災害科学
会場：Japan House LA (ロサンゼルス)

2023年1月26日(木)、ロサンゼルスのJapan Houseにおいて、現地の日本総領事、カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)、地元関係者などを招き、「リジェネラティブ・アーバニズム展」の内覧会が開催されました。この展覧会は、UCLA、東北大学、そして日本科学未来館が中心となり、APRU(環太平洋大学協会)にも参加するメルボルン大学、ワシントン大学やシンガポール国立大学など環太平洋地域の11大学が参加する国際共同プロジェクトArcDR³の活動の一環となります。当研究所からは、今村文彦所長(津波工学研究分野)、村尾修教授、泉貴子教授(共に国際防災戦略研究分野)が参加しました。内覧会オープニングに際し、今村所長が開会の挨拶と東北大学大野英男総長からのメッセージの代読をしました。1回目の展覧会は2022年4月9-24日、室町三井ホール&カンファレンス(東京)にて開催され、今回が2回目の開催となります。内覧会へは100名近くの方々が登場され、熱心に展示やパネルの説明を視察されていました。

プロジェクトのテーマである「リジェネラティブ・アーバニズム」とは、自然界と人間界の関係を深く織り合わせながら、柔軟性と弾力性のある環境をデザインするための総合的で多角的なアプローチです。展覧会では、災害や気候変動の複合的な危機に対応する水成・群島・時制・火成・共生・遊牧・対話都市といった革新的な都市のデザインを「7つの都市の物語」として紹介します。展覧会を通じて、多くの方々と、災害のリスクとともに生きる私たちが目指すべき自然と調和する新しい都市のあり方を考えます。

1月28日(土)には、同じくJapan House LAにて、UCLA Terasaki Center for Japanese Studiesが主催する「Global Japan Forum 2023: Designing with Disaster」が開催されました。今村所長を含む、以下5名の発表者が登壇しました。

Session 1: Disasters around the World

Prof. Fumihiko Imamura (Tohoku University)

Prof. Renato D' Alencon (Pontificia Catholic University of Chile)

Dr. Jack Cohen (U.S. Forest Service Researcher)

Session 2: Designing the Future

Prof. Momoyo Kajima (Atelier Bow-Wow/University of Tsukuba)

Mr. Shohei Shigematsu (OMA New York)

今村所長は発表の中で、東日本大震災の被害および復興状況や日本における防災対策を紹介し、早期警報や経験・教訓を未来へつなぐことの重要性、また、我々にできることは何かについて講演しました。

この展覧会がArcDR³プロジェクトの総括となりますが、このプロジェクトを通して得られた大学間の連携等を活かし、今後もさらなる国際共同プロジェクトや研究に発展させられるよう、様々な議論を続けていく予定です。

文責：今村文彦(津波工学研究分野)、村尾修、泉貴子(国際防災戦略研究分野)
(次頁へつづく)

